

### 第3回新潟市文化創造推進委員会 会議録

開催日時	平成28年12月21日（水）午後1時30分～午後3時20分
開催場所	新潟市役所本館3階 対策室1
出席者	<p>【委員】（50音順）  石田美紀委員、今井美穂委員、太下義之委員、大谷剛史委員、角地智史委員、  迫一成委員、田中久美子委員、能登剛史委員、村山和恵委員  出席 9名  欠席 2名（伊藤聡子委員、丹治嘉彦委員）</p> <p>【オブザーバー】  欠席 （新潟県文化振興課長補佐）</p> <p>【事務局】  文化スポーツ部長、文化政策課長、文化創造推進課長、文化政策課長補佐  アーツカウンシル新潟</p>
傍聴者	2名
報道機関	0社
会議内容	<p>1 開 会  （司 会）  ただいまより第3回新潟市文化創造推進委員会を開催します。  委員の皆様におかれましては、年末のお忙しい時期にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は司会を務めます文化政策課課長補佐の南雲でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>本委員会は公開の会議とさせていただいております。会議録作成のため録音させていただいておりますので、ご了承ください。</p> <p>なお、本日、伊藤聡子委員、丹治嘉彦委員、オブザーバーの新潟県文化振興課の柴田課長補佐がご欠席でございますのでご報告いたします。</p> <p>会議の前に資料の確認をさせていただきたいと思っております。先にお送りしておりました資料のうち、本日差し替えがございまして、机の上に配付している次第を差し替えとさせていただきます。資料1「（仮称）新潟市文化創造交流都市ビジョン 全体構成」、資料2「（仮称）新潟市文化創造交流都市ビジョン 素案」、資料3「オリンピック文化プログラムの推進について」、資料4「（仮称）新潟市文化創造交流都市ビジョン 今後のスケジュール」です。本日、資料5「アーツカウンシル新潟 スタッフ略歴」と資料6「アーツカウンシル新潟 中期計画（案）」を追加資料として机上配付させていただいております。</p> <p>能登委員から情報提供ということで「アート・ミックス・ジャパン」のパンフレットを頂きましたので、机の上に配付させていただきました。</p> <p>以上、おそろいでしょうか。</p>

ここからの進行につきましては太下委員長にお願いいたします。よろしく  
お願いします。

## 2 意見交換

### (1) 新潟市文化創造都市ビジョンの見直しについて

(資料1、資料2、資料3、資料4)

#### (太下委員長)

皆さんこんにちは。最初に、「(1) 新潟市文化創造都市ビジョンの見直し  
について」、事務局から説明をお願いします。

#### (事務局)

事務局の文化政策課長の中野です。よろしくお願いいたします。見直しの  
案につきまして、私から説明させていただきます。

ビジョンの素案についてですけれども、これまで委員の皆様からいただ  
いたご意見を基に、庁内関係課で組織する文化創造推進本部ワーキンググル  
ープにおいて具体的な事項について検討し、新たなビジョンの素案としてまと  
めました。本日はこの素案についてご意見をいただきたいと思います。

はじめに、資料1と資料2により説明させていただきます。基本的には資  
料2に沿って説明させていただきますけれども、適宜、資料1の全体構成を  
見ながら、説明部分の位置をご確認いただければと思っております。

資料2の2ページをお開きください。「1 新潟市文化創造交流都市ビジ  
ョンについて」です。ここでは主に本ビジョンの背景や位置づけ、期間につ  
いて記載しております。はじめに「(1) 策定趣旨」です。これまでの会議で  
ご説明させていただいたとおり、本ビジョンは平成23年度に策定した現ビジ  
ョンに社会情勢の変化への対応と新たな視点を加え、本市の目指す文化創造交  
流都市に関する施策展開の基本的な考え方や方向性を示すものです。また、  
(1)の下から3行目、本ビジョンにおける「文化芸術」という用語につ  
いて、文学や音楽、美術、演劇、舞踊などの芸術のほか、マンガ・アニメな  
どのメディア芸術、伝統芸能、茶道や華道、書道などの生活文化、歴史文化な  
ど幅広い分野を含むものとしております。

「(2) 新潟市を取り巻く状況」として、様々な社会情勢の変化の中でも、  
本ビジョンに特に関わりの深い、①人口減少、少子・超高齢社会、②2020年  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、③グローバル化の進展  
の三つを記載しております。グローバル化の進展には幅広い内容が含まれま  
すので、少し補足させていただきますと、ここでは様々な分野での国際交流  
が進む中、本市の文化的なアイデンティティの確立と発信がますます必要と  
なっていること、また、グローバル化を加速させている要因の一つであるイ  
ンターネット等の情報通信技術の急速な発展と普及により、人間関係に及ぼ  
す影響など社会的な課題も生じてきている面について記載しております。

「(3) これまでの取り組み」については、これまで現ビジョンの重点施策

である食文化、水と土の文化創造、マンガ・アニメ、音楽・舞台芸術などを中心に様々な施策に着実に取り組んできたほか、プロジェクションマッピングや「アート・ミックス・ジャパン」、アイドルなどのポップカルチャーなど新たな取り組みも生まれ、育っております。その結果、文化庁長官表彰、日仏交流優良賞、東アジア文化都市など、外部からの評価を高めてきたということでございます。

「(4) ビジョンの位置づけ」ですが、①国との関係性では、記載の「我が国が目指す『文化芸術立国』の姿」を踏まえ、本市の個性を活かしながら、施策の展開を図ってまいります。②本市での位置づけでは、市政の最上位計画である「にいがた未来ビジョン」の実現に向け、「文化創造交流都市」に関する施策展開の基本的な考え方や方向性を示すものとしします。また、本ビジョンのもと、現在策定作業中の「食文化創造都市にいがた推進計画」や改定作業中の「マンガ・アニメを活用したまちづくり構想」により、具体的な取り組みを計画的に推進していきます。

現ビジョンの基本理念は本ビジョンでも継続してまいります。この基本理念のもと、本市が目指す姿を具体的に表すため、「新潟市の目指す文化創造交流都市の姿」として四つの姿を掲げます。この目指す姿は、新ビジョンにおいて新たに設けるものでございます。一つ目は「あらゆる市民が文化芸術にいきいきと参画している」、二つ目は「文化が人を呼び、新たな雇用を生み、まちの活性化につながることを市民が実感している」、三つ目は「北東アジアの文化交流拠点都市としての役割を果たしている」、四つ目は「2020年東京大会を契機に全市で文化プログラムが展開され、その効果が大会後も継承されている」、この四つの姿です。そして、本市が目指す姿の実現に向けて三つの基本方針を定めます。「基本方針1 市民の文化芸術活動を支援し、次世代への継承を進めます」、「基本方針2 新潟市らしい文化の発信と交流により世界の中での存在感を高めます」、「基本方針3 文化の力を活用して都市の活力創出と成長を目指します」、この三つの基本方針の後に、全体を貫く視点として「オリンピック文化プログラムの推進」という項目を別立てで設けております。

基本方針1から順に説明させていただきます。7ページをご覧ください。「基本方針1 市民の文化芸術活動を支援し、次世代への継承を進めます」という部分です。「(1) 市民が主体の文化芸術活動への支援」という項目になりますけれども、ここでは、施策の方向性として四つ記載しております。一つ目が、「子どもや高齢者、障がい者などすべての市民が気軽に文化芸術を鑑賞・創作・体験・発表できる機会を充実します。」ということで、こちらに対応する主な取り組みとしては、●(黒丸)の二つ、「多様なメディアを活用した文化情報の提供」、例えば美術館だよりでの情報提供ですとか、あるいは子育て家庭に対しては子育て応援アプリという市のアプリがありますけれども、そういったものを使って情報提供していくといった取り組みを想定して

おります。そのほか、こちらにも美術館などで行っているアートリップという、学校に行ってレクチャーをして、子どもたちに美術館に来てもらって、実際に見てもらおうという取り組みですとか、文化施設によるアウトリーチ活動といったことを想定しております。

「施策の方向性」の2番目ですけれども、地域の自然や歴史、文化の魅力を再発見し、地域への誇り、愛着づくりにつながる取り組みを市民と協働で進めます。主な取り組みとして8ページに書いてあるような、地域のコミュニティ協議会との協働など、具体的に新潟市で行われているものでいいますと、北区で行われている福島潟自然文化祭や西蒲区のわらアートまつりといった取り組みを想定しております。

3番目ですけれども、障がい者の文化芸術活動や参加を促す活動を推進し、文化の面でバリアフリーを進めますということです。施策の方向性の一番最初は、子どもや高齢者、障がい者すべての市民ということで、社会的弱者といわれる方たちを含む、とにかくすべての人が文化芸術に親しむことをうたっているわけですけれども、3番目につきましては、あえてここは障がい者に焦点を当てまして、障がい者アートの展示会であるとか、障がい者の活動に対して一般の方の理解を深めるワークショップの開催を想定しております。

4番目に、市民、NPO、企業、大学など多様な主体が行う文化芸術活動の支援ということで、こちらは新潟市の芸術文化振興財団が行う助成事業や、今回設立されたアーツカウンシル新潟の専門人材による文化芸術活動の支援などを想定しております。

ここに、障がい者アートについて1ページほどのコラムを掲載したいと思っております。この執筆者については後ほど相談させていただきたいと思っております。

続いて「(2)文化創造拠点の活性化」ということです。施策の方向性を見ていただきますと、1番最初は、りゅーとびあや新潟市美術館という専門性の高い施設を文化創造の拠点と位置づけると考えておりまして、そこで質の高い舞台芸術や展覧会などを開催することになります。具体的に例を挙げますと、Noismなどの活動を想定しております。

2番目の「地域の文化施設では、住民主体の取り組みが容易になるよう支援します。」ということですが、具体的にはみなとびあでのファンクラブの活動ですとか、秋葉区で行われている石油の世界館友の会などの活動を想定しております。

3番目ですけれども、文化施設の専門性を活かした次世代の育成や文化芸術をより広く市民に届ける活動を推進するというので、こちらはりゅーとびあで行っているようなジュニアの育成やアウトリーチ活動を想定しております。

4番目、多様な文化的特徴を持つエリア内のゆるやかなネットワーク化と

ということですが、例えば西大畑地区に文化施設がいろいろとありまして、「異人池の会」というものが立ち上がっていますけれども、行政からの押しつけではなくて、民間主導でネットワーク化が図られることを期待しているということでございます。

「(3) 子どもや若者、アーティスト・クリエイターの育成・支援」ということで、施策の方向性の1番目では、子どもの豊かな感性や創造力を育むということ、優れた文化芸術に触れていただくということなわけですけれども、りゅーとぴあで小学5年生を対象に行っている「わくわくキッズコンサート」や水と土の芸術祭の関係で行っているこどもプロジェクト、市のこども創造センターで行っているようなものを想定しています。

2番目については基本方針1(2)の再掲になります。

3番目の創造的な活動を行う若者の活動を積極的に支援するということにつきましては、今、若手のマンガ家を育成するということで、昔のトキワ荘のようなシェアハウスをやっているのですけれども、そういったものを想定しております。

4番目ですけれども、主な取り組みの4番目と5番目がそれに該当するのですけれども、現在、空き校舎となっている旧二葉中学校がありますけれども、こちらを「(仮称)芸術創造ファクトリー」に作り変えるということで作業を進めております。国内外のアーティストやクリエイターの滞在活動拠点を整備するとともに、教育委員会が青少年の国際交流の場としても使うということで、その活動施設を整備するというのと、この施設を使ってアーティスト、クリエイターと青少年が交流する機会を創出していきたいと考えております。

「(4) 地域文化の継承と発展」です。こちらも施策の方向性を見ていただきたいと思います。主な取り組みの一番上ですけれども、国指定重要文化財になっております旧新潟税関庁舎をはじめとする歴史的建造物の保存整備と活用などをイメージしております。

2番目の地域文化の担い手育成ということですが、今、アーツカウンシルで無形文化財の実態調査や担い手の育成支援を行うことを計画しておりますので、そのような活動を進めていきたいと思っております。

3番目の有形文化遺産の魅力の積極的な発信につきましては、ボランティアガイドにより、市民や観光客を対象としたまち歩きを実施したり、みなとぴあなどにおけるみなとまち新潟の歴史を再発見する講座やプロジェクトを実施するというを考えております。

歴史的建造物のライトアップ等による新たな魅力創出とありますが、これはプロジェクションマッピング「光の響演」でみなとぴあのライトアップなどもやっておりますが、そういったもので新たな魅力を創出することもやっていきたいと思っております。

「基本方針2 新潟市らしい文化の発信と交流により世界の中での存在感

を高めます」ということです。「(1) 新潟市らしい文化を国内外へ発信」ということで、新潟市らしい文化を国際ブランドとして確立して交流人口の拡大に活かしていくというような視点です。施策の方向性として、「みなとまち文化」、「食文化」、「マンガ・アニメ」を中心とした戦略的なプロモーションを進めるということなのですけれども、具体的には開港 150 周年のイベント事業でありますとか、「食で選ばれるまち」の実現に向けたプロモーション、ガストロノミーツーリズムというあたりに力を入れていきたいと思っておりますし、また、マンガ・アニメのまちにいがたの都市イメージも発信していくということを考えております。

2 番目の「質の高い舞台芸術や独自性の高いコンテンツの海外公演や国内外への発信を支援します。」ということでは、先ほども触れましたが、国内唯一のレジデンシャルダンスカンパニーである No i s m の発信もあります。能登委員が取り組んでおられる「アート・ミックス・ジャパン」についても新潟市としても支援をしていきたいと考えております。

3 番目は、本市のアイデンティティの一つである「水と土」の文化ということで、「水と土」によって形成された潟などの独自の自然環境や暮らし文化に光を当てて、これに現代アート等を活用して磨き上げて発信していくことを考えております。

4 番目の、本市の個性ある文化資源と他都市の文化資源が持つ共通のコンセプトにより、点から線、線から面へとつなぐということですが、食文化もそうですけれども、マンガ・アニメに関していえば現在も京都や埼玉と協力しておりますし、日本遺産として火焰土器、火焰街道協議会で県内の他都市と共同して連携していくといったこともございますし、近代建築物ということでは、新潟市美術館は前川國男さんの設計なので、前川國男の建築物を通じたネットワーク化の組織も立ち上がっておりますので、そういうところに参加していくということ。歴史博物館みなとびあにつきまは、西安の博物館と連携関係にございますし、新津鉄道資料館も愛媛県西条市と連携もしておりますし、今後、大宮の鉄道博物館とも関係ができていくのではないかと考えております。

「(2) 国内外の創造都市の交流を深める」という部分ですが、昨年、東アジア文化都市に選ばれて、そちらのネットワークもございますし、現在、創造都市ネットワーク日本 (CCNJ) という組織の代表幹事を新潟市が務めておりますので、すでに持っている国内外の都市間ネットワークを結びつけて、新潟市が北東アジアにおける文化交流拠点としての役割を果たすことを実現していきたいと考えております。

施策の方向性の 2 番目では、フランス・ナント市などの姉妹友好都市、あるいは京都や奈良などの国内の交流拠点都市もそうですし、東アジア文化都市を通じて、市民団体や文化施設が文化交流することを支援していくというようなことをこちらで記載しております。

「基本方針3 文化の力を活用して都市の活力創出と成長を目指します」ということですが、「(1) 文化創造の力を活かした交流人口拡大と地域経済活性化」では、施策の方向性として四つ記載しておりますが、他都市との連携が一つあります。それからMICEの誘致ということで、来年度、新潟市でマンガ学会を開催することが決まっておりますが、文化関係の学会といったものを誘致してきたいと思っております。

新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあを国際文化交流の拠点と位置づけ、国内外の発進力の高い国際的な文化交流事業を推進していきたいと考えています。具体的には、今年実施した「BeSeTo演劇祭」や、昨年行いました「新潟インターナショナルダンスフェスティバル」などを今後も開催できればと考えております。

文化芸術の創造性を活かした新たな産業と雇用の創出ということでは、マンガ・アニメ、ゲームといったコンテンツ産業の体制づくりを図っていききたいと考えております。

「(2) 社会や地域の課題解決に文化芸術を活用」という部分ですが、施策の方向性として、文化芸術を産業の活性化以外、教育や保健、福祉、環境、地域コミュニティの活性化などにも活用していきたいということなのですけれども、主な取り組みの一番上が該当部分となります。「介護予防や健康づくりに文化芸術を活用した取り組みを推進」ということで、具体的に言いますと、これも能登委員にご協力いただきました総おどり体操などを想定しております。

社会や地域の課題解決にコミュニティの活性化など、市民が主体となって取り組む文化芸術を活用していくということなのですけれども、例えばひきこもりなどの若者を支援する若者支援センターで行っている若者の文化活動推進交流会などの活動を支援していきたいと考えています。

市民の文化芸術活動を発展させ、地域の課題解決に取り組む人材を育成するということなのですが、今年度、文化創造推進課で「現代アートや演劇をツールとしてコミュニティオーガナイザーを育てる学校」という事業をやりましたけれども、そのようなことを想定しております。

17 ページの一番下にも、社会・地域課題の解決に文化芸術を活用している国内外の事例をコラムとして紹介したいと考えております。

18 ページからは「オリンピック文化プログラムの推進」になります。一番上の部分は文化プログラムの説明ですけれども、後半部分で、オリンピックの文化プログラムの認証制度について説明しております。新潟市で行う文化プログラムについては、できるだけ認証マークを取得し、これを使用することで発信力を高めていきたいと考えています。

本市の文化プログラムの推進ですが、本市としては文化芸術の専門人材による組織、「アーツカウンシル新潟」を今年9月に設立したということでございます。「アーツカウンシル新潟」と行政が連携して文化プログラムに全市一

体で取り組むことを記載しております。

19 ページ以降につきましては、資料3「オリンピック文化プログラムの推進について」という資料がありますが、一番上に文化創造交流都市ビジョンの基本方針があり、このビジョンに則ってこういったプログラムを進めていくということで、19 ページに書いてある「推進の視点」①、②、③というのがありますが、表の左側にある縦長の四角の中に書いてある「文化プログラム取り組みの方向性」が「推進の視点」になります。一番上の部分、子ども、高齢者、障がい者、外国人という部分では、基本方針1と基本的に同じなのですけれども、最後に、「多様な価値観の相互理解を深める」という部分が基本方針1にさらにプラスされている部分でございます。

推進の視点の二つ目は、基本方針2と基本方針3を合わせたような記述になっております。多様な新潟文化の魅力をさらに磨き上げ、世界に向けた魅力発信を行い交流人口の拡大につなげるということを記載しております。

推進の視点3番目は基本方針3と同じ内容になっております。

主な取り組みとして、紫と黄緑とオレンジになっている三つ、「文化プログラムを牽引する取り組み」と「文化交流拠点化に向けた取り組み」と「市民活動の活性化」の三つを進めていきたいと考えておりますけれども、文化プログラムを牽引する取り組みとしては、今年度すでに、「◆BeSeTo演劇祭」以下、「◆新潟、東京、沖縄で生まれた伝統芸能の共演」までの四つの事業、このように発信力の高い大規模イベントを行っていくということですが、◆印はすでに文化プログラムの認証事業として国から認めていただいた事業になります。新潟市としては今年10月からすでにこの四つの文化プログラムの認証事業が行われているということですので、今後も2020年まで認証事業を行っていききたいということで、来年、候補として政令市10周年イベントや「新潟インターナショナルダンスフェスティバル」、「西安特別展」なども考えておりますし、2018年には3回目となる「水と土の芸術祭」を開催したいと考えております。2019年には「BeSeTo演劇祭」を再度行いたいという考えもございまして、この年には新潟県で国民文化祭が行われる予定になっております。

継続事業として、「ラ・フォル・ジュルネ」ですとか「アート・ミックス・ジャパン」、「にいがたアニメ・マンガフェスティバル(がたふえす)」、プロジェクトマッピングの「光の響演」といった事業もできれば東京オリンピックまで続けていきたいと考えています。

来年度の新規事業として計画しておりますのが、障がい者アートの支援、ガストロノミーツーリズムや鉄道文化についても新たに組み込んでいきたいと考えています。りゅーとぴあでNoismの事業などの実施企画も行っていきたいと考えています。

「文化交流拠点化に向けた取り組み」では、東アジア文化都市を中心として、こちらに書いてあるような形で考えておりますけれども、拠点、基盤整



備としてアーツカウンシルを設立しましたし、2018年には芸術創造ファクトリーを供用開始する予定としております。創造都市ネットワーク日本（CCNJ）や東アジア文化都市、あとは今後各地域でアーツカウンシルが新たに立ち上がっていくことが想定されますので、そういったところとも連携しながら進めていきます。

市民活動の活性化に向けては、現在も助成制度があるのですが、さらに充実させていくことを考えていきたいと思っておりますし、伝統芸能の調査を通じて、地域の伝統芸能にも新たに光を当てて、伝統芸能を活用した事業提案なども今後行っていきたいと思っております。こういった活動をつなげて行っていくことで、2020年、太下委員長が提案されております「プラス・トーキョー」、まず新潟に来ていただいて、それから東京に競技を見に行ってくださいといった動きにつなげていきたいと思っておりますし、そうすることで、東京オリンピックが終わった後も持続可能な推進体制ができ、他分野との相互連携など、ここに書いてあるようなものが新潟にとってのレガシーとして残るようにしていきたい。そうすることで、今回の新しいビジョンで目指す文化創造交流都市につながっていくのではないかと考えています。

施策体系についての説明は以上でございます。

次に20ページをお開きいただきたいのですが、こちらでは文化創造交流都市新潟市の実現に向けてということで、推進体制と関係団体等との連携強化について記載をしています。はじめに、「(1) 推進体制」についてですけれども、市長を本部長とする庁内推進体制である「新潟市文化創造推進本部」、今、開催しております「新潟市文化創造推進委員会」、「アーツカウンシル新潟」、主にこの三つの組織がそれぞれの役割を果たしながら一体となって取り組んでいくということです。

「(2) 関係団体等との連携強化」ですけれども、本市が目指す文化創造交流都市の原動力は、一人ひとりの市民であり、市民、NPO、関係団体や民間事業者等の参画と協力が不可欠であると。また、新潟市芸術文化振興財団や「アーツカウンシル新潟」、「新潟市文化・スポーツコミッション」など、専門人材やノウハウを持つ組織と連携した施策展開を図ることで、文化創造交流都市の実現に向けて全市一体となった取り組みを推進していくということを書いております。

20ページの一番下の部分ですけれども、アーツカウンシル新潟を紹介するコラムを掲載する予定で、こちらは「アーツカウンシル新潟」の杉浦幹男プログラムディレクターに書いていただきたいと思っております。

次に、「5 参考資料」として、21ページから26ページまでは、今年7月から8月に実施した「文化に関する市民アンケート調査」について掲載しております。調査結果を抜粋で掲載しておりますが、全体については市のホームページで公開しております。

27ページでは、「(2) パブリックコメント」の概要とありますけれども、

パブリックコメントについては来年1月6日から2月6日の1か月間、今日、皆さんの意見を伺ってから市民の皆様から意見を募集し、その実施結果について掲載をしたいと思います。寄せられたご意見の内容や、それをどのように反映したかにつきましては、次回3月に開催予定の本委員会でご報告させていただく予定です。

(3)は本委員会の委員名簿と、会議開催状況について掲載する予定です。委員名簿に記載しております所属等という欄について修正が必要な方は、本委員会終了後、事務局までお知らせいただきたいと思います。

資料2のビジョンの素案についての説明は以上となります。

なお、成果目標と成果指標については、前回の会議で委員の皆様より、文化や芸術に関しての成果は表しにくい、指標自体が難しい、評価すること自体が難しいというご意見や、数字だけではなく、無作為のインタビューやライターなど外部の方からの評価等、複合的な評価としてはどうかというご意見を頂きました。頂いたご意見を踏まえ、事務局やワーキングでも検討いたしまして、本ビジョンは施策展開の基本的な考え方や方向性を示すものであることから、ビジョンに関連する各事業の参加者数などの数値データは把握しつつも、数値を用いた成果目標や成果指標は設定しないこととしたいと思います。本ビジョンに関連する事業の評価にあたっては、専門人材による調査研究機関でもある「アーツカウンシル新潟」と連携し、定量的な面だけではなく定性的な面を考慮した評価方法を検討していきたいと考えております。重点的に取り組む事業を中心に、「アーツカウンシル新潟」と共同で評価を行い、その評価結果を基に本委員会にて成果検証を行うことで、PDCAサイクルを確立し確実にビジョンを推進していきます。次回の会議では成果検証方法について具体的な案を提示させていただきたいと思っております。

続いて、今後のスケジュールについてご説明します。資料4をご覧ください。本日のご意見を踏まえた素案について1月6日から2月6日までパブリックコメントを実施します。実施については「市報にいがた」12月25日号、市ホームページで広報していきます。2月中旬に市議会へ報告した後、3月に本委員会の第4回会議を開催する予定でございます。第4回会議では、パブリックコメントの実施結果の報告と関連事業成果、検証方法について事務局案を提示しご意見をいただきたいと思います。その後、新ビジョン策定の完了、公表となります。冊子デザインにつきましては、ぜひ迫委員からアドバイスをいただきながら進めていければと考えております。ビジョンの見直しについての説明は以上です。

#### (太下委員長)

ご説明ありがとうございました。

だいぶボリュームがありましたけれども、事前に皆さんのお手元にも配付されていたかと思えますし、今日のご意見を踏まえてパブリックコメントを経て作っていくことですので、ぜひいろいろなご意見を頂きたいと。

今日頂くものが基本的に最後の機会になるかと思います。いかがでしょうか。かなりすっきりとまとまってきたと思います。

(田中委員)

太下委員長がおっしゃるとおり、だいぶ分かりやすくなってきていると思います。新潟市が平成23年度に新潟市文化創造都市ビジョンを策定して、5か年計画ということで着実に進めてきたということです。今回は第2次となるわけですね。第2次を策定して、グローバル化あるいはオリンピックが決まったので、第1次は新潟市文化創造都市ビジョンだったものが、そこに「交流」が入って一段と内容も膨らんでいくという。1次で着実にやったものは継続または発展させて2次にも続いていくというイメージでよろしいですね、1次のときに委員会というのはあったのですよね。それはないのですか。

(事務局)

このような正式な委員会というのはありませんでした。

(田中委員)

2次からということで理解していいのですか。

(事務局)

そうです。

(田中委員)

その辺の流れとしては分かりやすくなってきて、オリンピック文化プログラムが一つ独立して施策体系にあるわけです。これに対してのアーツカウンシルの組織なのですよね。

(事務局)

文化創造推進課の塚原と申します。

アーツカウンシルについては、オリンピック文化プログラムの推進というのが一つのきっかけとして、全国各地に立ち上げたい都市はありますかということで、新潟市は一番に手を挙げさせてもらって、今、設立しているということです。第一義的には2020年に向けてオリンピック文化プログラムに積極的に取り組んでいくというミッションがありますけれども、それだけではなくて、その取り組みを通じて2020年以降も新潟市民の文化活動が活性化するように寄り添い型の支援をやっていくことを目的にアーツカウンシルはできています。

(田中委員)

新潟市文化創造交流都市ビジョンに対してのアーツカウンシルの組織だと思っていいのですか。全部おやりになるのですか。

(事務局)

新潟市のビジョンに基づいて、これから展開していく文化政策に対する提言などもしてもらいますし、事業の評価も含めPDCAを回していくための専門機関として、市役所の外側に基盤組織として整備していきます。

(田中委員)

私たちはビジョンに対しての意見を言えばいいのか、内容まで言ってよろしいのでしょうか。アーツカウンシルの仕事とどのように違うのか。私たちが内容まで、こうしたほうがいいのかではないかとか、そういったことを言うのは役割が違うのではないかと思い始めたのです。中身について、もう少しこうしたほうがいいのかといった意見を言うのは違うのでしょうか。それともかまわないのですか。

(事務局)

言っていただいてけっこうです。何かお気づきの点があればどんどん。計画レベルでも、今やっていることでも。

(田中委員)

例えば、今度、開港 150 周年の事業に関して、もちろん、着実にいろいろなことを積み重ねていらっしゃるのはいいのですけれども、どうしても横浜や神戸といったところと比べると、現在の港という点では外国船が入るわけでもなく、砂がたまっていくばかりで、どちらかという東港ですよね。開港のところとは少し違う。ここに、北前船の最大の寄港地だったということアピールすると書いてありますから、もう少し北前船の入口として、子どもも大人も北前船が歴史博物館の前に、恒久的なものでなくてもいいですから、1年間もてばいいレプリカの同じ大きさのものを置くとか、シンボリックなものがあったほうが、すごいな、これが北前船なんだねと。北前船についてもう少し詳しく歴史博物館の中に入ってビデオなどを見てみようといった気持ちにする導入部分のインパクトという点で、私も北前船がどのくらい大きかったか分からないのです。プラスチックでも何でもいいですから、できれば中に入れれば一番いいのですが、子どもにも分かりやすいもの。前にNEXT 21に小林幸子さんの大きいのがありましたよね。ああいったものはとても分かりやすかったと思います。まずそこからやったほうがいいのかと思いました。

(太下委員長)

何らかシンボリックなものが必要かもしれないですね。

(事務局)

それに関して発言させていただきます。今、前半、田中委員から「アーツカウンシル新潟」の役割がぼやっとしているのではないかというイメージが伝わってきているのですけれども、「アーツカウンシル新潟」というのは、何をするのかというのは、塚原課長から、文化芸術団体の支援や諸々という説明があったのですけれども、どちらかという、市民自らの文化がより活発化されたり、違う団体とつながったり、文化芸術団体の支援団体、お手伝いをしていく団体と認識していますし、そこに対して市がある程度予算を出しつつ、アーツカウンシルの判断でそういう団体に、補助金的なもの、助成金的なものを出す仕組みにも膨らませていきたいと思っています。

アーツカウンシルのプログラムディレクターやプログラムオフィサーの方々は、全国から相当優秀な方から多く応募いただき、その中でも生え抜きの皆さんから新潟に来ていただいたので、非常に頼りにしてもらいたいと思っています。一つの新潟の文化芸術団体の底上げを図るような基盤組織といった部分があるので、我々としても、先ほど中野課長から話がありました今回の文化創造交流都市ビジョンがきちんと進捗されているのかどうなのか評価をするときに、専門的な知見をお持ちなので、そこにも評価してもらいましょうねと思っています。ビジョンの策定に当たっては、今回、文化創造推進委員会の皆様からいろいろな意見をいただき、我々事務局サイドが取りまとめていくという役割なのではないかと思います。

開港 150 周年なのですけれども、新潟市も全庁で、庁外の方々、さまざまな分野が集まってわいわいと、何をやるかといっただけやっていると。北前船については我々の中でも話がいろいろ出ていますし、何年か前に1回、北前船の復元されたものが新潟にも実際に寄港してきて、子どもたちが帆をあげるとか、帆走させるといったこともやっていました。江戸時代は北前船によって新潟が交流の拠点だったという歴史もありますので、当然のことながら、それは焦点をあてていかなければいけないのではないかと考えております。また、150周年は明治150年にもあたるので、おそらく盛大に行われるのではないかと考えています。

**(太下委員長)**

「アーツカウンシル新潟」については最初にお話しすればよかったのでしようけれども、二つ目の報告事項としてあがっていて、今後の取り組みのご報告があるので、そのときにご意見があればお願いします。

まずはビジョンの素案についてご意見またはご質問等があったらお願いします。

能登さん、せっかくですから、ご報告などがあったらお願いします。

**(能登委員)**

ご報告ですが、委員の皆さんに配らせていただいた「アート・ミックス・ジャパン」の4月開催のパンフレットと、先日12月3日、4日で「アート・ミックス・ジャパン」の海外開催の第一歩となりますメキシコシティでの開催の実施報告書をお配りさせていただきました。細かい内容は割愛しますが、メキシコシティでは中心市街地で開催したのですけれども、なんと5万人の方々が来場しまして、日本からは6アーティスト、現地の日系のアーティスト、合計26団体で、新潟で開催している「アート・ミックス・ジャパン」をメキシコシティで開催してきました。ラーメン店が出ていたり、アニメ・マンガ、ゲーム、また日本製品、食なども屋台として出店し大変賑やかでした。現地の日墨協会という日系の方々のコミュニティが今年で60周年になるのですけれども、そういった団体の皆様と交流しながら、そういった機会を盛り上げてきたわけですが、全公演の中、「アート・ミックス・ジャパ

ン・フロム・ニイガタ」という言葉がメキシコシティでとどろき続けまして、新潟はどこなんだということで、微力ではございますが、精一杯やってこれたと感じております。

今回の主催は文化庁、外務省と国際交流基金、現地の大使館などと共同でやったのですが、来年以降も継続的に海外、メキシコ以外の国を巡回で行っていくと。一つの目標としては、太下委員長もおっしゃっていますけれども、2020年のオリンピック開催、その直前にあるパリ開催が新潟から発信する文化コンテンツとして「アート・ミックス・ジャパン」ができれば、非常に夢があるなということで、現在、目指しているところでございます。新潟で開催する「アート・ミックス・ジャパン」が赤い表紙のものでございます。来年4月で5回目の開催ということで記念すべき開催となります。メキシコでの実績、新潟で4年間、市民の皆様と一緒に育ててきた「アート・ミックス・ジャパン」をさらに規模を拡大していこうと。よりよく県外、海外の方々から新潟にいつでも来場いただけるような長期間開催を企画しまして、4月1日から23日まで。過去4年間のベスト版を、アルバムのベスト版のような感じで全4回の満員公演を全部集めて、同時にアニメコンテンツで知られるポップカルチャーなども今回のこの期間中にご紹介していこうという企画で準備をさせていただいております。

こういったよりよいコンテンツを制作し、2020年、さまざまな夢を実現していくためにも継続していかなければいけない。たくさんの方々に1公演でけっこうですので、ぜひ足を運んでいただきたいと。ご友人、ご家族を連れてきていただければ、さらに盛り上がっていきますので、皆様のご来場をお待ちしています。

(太下委員長)

今度やるものは海外からも来ると。

(能登委員)

そうですね。

(太下委員長)

「アート・ミックス・ジャパン」自体は海外にも出かけていくし、新潟で開催する「アート・ミックス・ジャパン」は海外からの公演の受入れのプラットフォームになっているということですね。

(能登委員)

そうですね。ここら辺のアイディアは太下委員長から頂いたのですが、「アート・ミックス・ジャパン」は日本の文化を紹介する、日本の文化を丸ごと新潟で体験していただくイベントですけれども、「アート・ミックス・ジャパンプラス」として、今後、アジア、ASEAN圏の文化も新潟に呼び込みながら紹介していこうと考えております。メキシコで5万人集まった実績がございましたので、新潟で開催したら世界中から呼べるパワーがあるのだと考えておりますし、ASEAN圏、アジアの皆さんと交流を続けていくことで、

逆に新潟の文化をASEAN圏、アジアに発信していけるのではないかと期待しております。

**(太下委員長)**

基本方針2のあたりに、新潟発のブランドとして「アート・ミックス・ジャパン」を書いてもらってください。

私から1点ですが、カラー刷りの資料3を見ると、新規の中で、障がい者アートやガストロノミーツーリズム、鉄道文化とあります。障がい者アートについては多分、2020年に向けて全国でいろいろやっていくことになると思います。また、ガストロノミーツーリズムについても全国でできるところは取り組むと思うのですが、鉄道文化というのはけっこうユニークで、新津のことだと思いますけれども、非常に新しいなという感じがしています。一方で、特に日本人男性はコレクターが多いですね。そして、いろいろなコレクションを持っている人たちがそろそろ高齢化してきています。経済成長とともにコレクションが充実している歴史があるので、例えば団塊の世代が後期高齢者になっていくと、最初のコレクター世代がそろそろ、自分のコレクションをどうしようかという時期にきています。鉄道文化だけの話ではないのですが、マニアやコレクターが全国にいて、自分のコレクションをどうしようかと思っている方が相当いるのではないかと思います。

例えば新津を拠点にして、廃校などでこうしたマニアのコレクションのうち、素晴らしいものを新潟市が引き受けますよという、新津が鉄道文化のメッカになるのではないかと気がします。廃校だけではなくて空き家などを使ってもいいかもしれません。マンガの家の鉄道版みたいなイメージです。

**(事務局)**

それはいいアイデアだと思うので、ぜひ。

ちなみに、とても整理できないということで、鉄道資料を寄贈いただいています。

**(事務局)**

歴史文化課でございます。

資料を持ってきていないので、記憶に頼るようで申し訳ないのですが、鉄道史学会という学会がありまして、県内にお二人しかいない会員の一人がお亡くなりになりまして、故人のお宅の五、六部屋を全部埋め尽くしていた大量の素晴らしい資料を遺族の方から寄贈いただきました。公共施設の空きスペースにとりあえず入れて、これから資料を整理するというので、このような大口の寄贈もありますし、そのほか、毎日のようにいろいろなところから寄贈したいというお話をいただいて、いろいろなものが集まっております。一方で、資料を売買する動きもありますので、できるだけ公共でいい資料を集めていけるように、館のほうでも努力しているところでございます。

(太下委員長)

ねらい目はジオラマだと思うのです。自宅にすごいジオラマを持っている人がいっぱいいますよね。鉄道分野では聞いたことがないのですが、その他のコレクションの分野においては、生前鑑定というものが流行りだしているのです。自分が死んだときにコレクションはどうなってしまうのだろうと不安に思っている高齢に入ったコレクターが、家族のためまたは自分の人生を総決算するために生前鑑定をし始めているのです。価値のあるものだけを選んで新潟で丸ごと、特に人に見せても楽しいジオラマを引き受けたりすると、すごくおもしろいと思います。

(事務局)

横浜の原鉄道模型博物館などはすごいですよね。

(太下委員長)

あれなんかはまさにそうですね。

(迫委員)

「新潟市らしい」という言葉がよく出てくるのですけれども、「新潟市らしい」と書かれている言葉、新潟市の方がぴんとこない可能性が非常に高い気がしていて、急に文化とかみなとまちと言われてもという方が多い気がするのですけれども、食文化に関しては自信を持たれている方が非常に多いというか、アンケートでも出ているので、食文化と既存の踊りだったり鉄道だったり混せていくとか。食をやたらと出すというか、そういったミックスをしていくと、「らしさ」と感じてくださる方が多いのではないかという気がします。アートなどに関しても、米をテーマにするなど、具体的なものにする事で、新潟っぽいねと言ってもらえるというか、米、酒系統を、新潟県の方だと新潟市は弱いと思うかもしれないですけれども、全国的に見ると十分強いと思うので、その辺を活かされると、市民の方にも新潟らしいと思ってもらえるのではないかという気がします。

(太下委員長)

お酒などもそうですね。前から思っているのですけれども、村山委員の前で何ですけれども、そんなに高い日本酒でなくても、杜氏さんの名前がラベルに書いてあるお酒というのがありますよね。杜氏さんというのはお酒のクリエイターだと思うのです。クリエイターの名前が誇らしくお酒のラベルに入っているのは、世界中で日本酒以外にないと思うのです。ワインは醸造所の名前が入っているのですけれども、あれはファクトリーですね。ウイスキーもブレンダーの名前が書いてありますけれども、ブレンダーというのは酒造りの最後の工程なのです。杜氏さんはお酒を最初から全部作っているし、もっとクリエイティブな存在として日本酒を取りあげるという手もありかなと思っています。

(村山委員)

今の迫さんのお話ですが、私も少し考えている部分があったのが、新潟市



らしいというところが非常にあいまいな部分でもあって、私たちのような関係している人たちは、新潟市らしいというのはこういうことかなというのは何となくイメージが共有できていると思うのですが、イメージの共有というところが非常に大事だなと思っていて、それが外に発信されるためにも、住んでいる人たちがどういうイメージを持っているかという部分の共有というのはすごく重要だなと思っています。迫さんもおっしゃっていたように、アンケート結果を見ると、食に関してはけっこう誇りを持っている方が多いということで、いちいち食をくっつけるというのでしょうか、食という分野はいろいろな親和性が高いと思いますし、いろいろな方をターゲットにして組み立てていけると思うのです。ですので、いちいち食をくっつけるというのはどうなのかなと考えていました。

**(太下委員長)**

新潟市の場合は平成の大合併で日本で一番多数の市町村と合併したので、「らしさ」というのはなかなか難しいと思います。逆に言説で、「らしさ」をどんどん言っていけないと、最大公約数でしか語れないということになってしまうので、まさにこういったビジョンづくりを通じていろいろな新潟市らしさを多様に展開していくということではないかと思っています。

**(今井委員)**

どこに入るのが分からないのですが、多分、基本方針1(2)文化創造拠点の活性化で、今ある既存の施設に対しての魅力向上などが書いてあるのですけれども、先ほどの田中委員のお話の中でも、やはり北前船ではないけれども、インパクトがあるものという視点で、新潟駅、新潟空港が特にそうなのですけれども、降り立ったときの残念感をすごく感じていて、クリエイターのまち、おしゃれなまちということであれば、やはり海外の方や県外のお客様の最初の入口である駅と空港をとにかくおしゃれにするといったことに力を入れるようなことが、どこかに一文、簡単ではないことは分かっているのですけれども、そういうものも目指しているといったことになったらいいなという、若者的感覚と、やはり最初の入口でサプライズ感が、新潟はすごいとか、それを見るためだけでも鉄道に乗ってきて見たいといった気持ちを喚起してくれるのではないかと考えているのですが、どうでしょうか。

**(太下委員長)**

空港は県の所管でしたっけ。

**(事務局)**

新潟空港は国の所管です。ただ、内部のデザインについては新潟空港ビルディングというところが管理していますので、それはできないことはないです。

**(迫委員)**

そこでプロジェクションマッピングなどの強みがあったりするので、映像でサイズが大きいものが空港や駅の中で投影されているというのが、そのの

すごいものがこの時期にありますよといったことで、それほどハードをいじることなくソフト展開できるので、総おどりなどで流れている音が駅に着いたら、空港に着いた時間帯だけでも流れると、来た感じがするなど。そうするとおどりのまちなのだと感じていたら、意外とビジュアルが得意なのだなどという動きになってくるので、ハードをいじらないやり方ができるのではないかと思います。

**(太下委員長)**

新潟駅に北前船がとまっているとか。

**(迫委員)**

いいですね。

**(田中委員)**

先ほどの「新潟市らしい」というところ、「みなとまち新潟」というところなのですけれども、「みなとまち気質」というのはあると言えば、あると言った人の勝ちだという感じがするのですけれども、多様な外来の文化、文化だからなのですけれども柔軟に受け入れるというのは、具体的に何を受け入れられて、何ができたのかと聞かれると、会社で話したら、みかづきのイタリアンじゃない？と。うどんにミートソースをかけて、あれは外来と日本のものを融合させたら新潟発の食文化だなと。具体的に外来の文化を柔軟に受け入れたものに何かあるのかといったときに、私も新潟生まれだから分からないのかもしれないので、教えてほしいなと思うのです。具体的にどのようなことだろうと。

**(事務局)**

文化といえるかどうかですけれども、例えばホテルイタリア軒ですが、イタリア人の方が新潟に残ったときに、その方をきちんとおもてなしして、イタリア軒でイタリア料理が作られるようになって、スパゲティミートソースというのはイタリア軒が日本で最初に出したお店らしいのですけれども、外国人を拒否しないで快く受け入れて、その人たちが持っていたものを受け入れたということが具体的な例としてあると思います。私が今思いつくのはそれくらいですが。

**(田中委員)**

そういうことは書いてもいいのでしょうか。具体的にあると分かりやすいなと思ったのです。

マンガ家を育てるということがありましたが、10 ページ(3)の施策の方向性で、「アーティストやクリエイターの滞在に伴う活動拠点」とあるのですけれども、これからマンガ家になる若者向けの強い感じが強いのですけれども、そういった人たちというのはマンガ家のアシスタントをやりながら成長することが大事みたいなことなので、企業誘致ではないですけれども、マンガ家を優遇して誘致して、マンガ家も優秀なアシスタントに困っているという話もあるので、新潟に来ると優秀なアシスタントがいて、広い作業場も

あり、いろいろな面で優遇を受けられて、そうするとアシスタントになる若い子も、どちらもウイン・ウインで、今、どこにいても原稿は送られる時代だと思うので、若い子を学校で教えたりするのもいいけれども、手っ取り早いのは、マンガ家に来てもらって、アシスタントになって勉強するほうが早いので、そういうことも考えていただけたらと思うのです。

(石田委員)

まさにおっしゃるとおりで、改めてイベントを持ってくるのではなくて、新潟市の中から作っていくときの仕掛けが必要だという議論があったように思っていますので、今、田中委員がおっしゃったような、拠点を作るということはとても大事だなということに尽きると思います。

拠点づくりもそうなのですが、レガシーというのは、太下委員から教えていただいたことをまとめますと、今から作っていくということですから、新潟市らしいというのが、新潟の歴史文化に接ぎ木していくものでもいいと思うので、そうするとマンガ家が、例えばマンガ家も一線で活躍されている方というのはだいぶ高齢というか、60代、70代くらいでずっと描いておられる方も多いので、そういう方々のノウハウを、先ほどの鉄道ジオラマではないですけれども、一挙にこちらに来てもらうような形で住環境、食、医療みたいな、高齢者になってくると、新潟というのはやはり雪のイメージがあるので、太平洋側からは来にくいというところもあるかと思うので、そういうところで引き抜いてくるというのは変な言い方ですけれども、作って持ってくるとか、向こうにあるイベントを持ってくるだけではなくて、人と周りの持っておられる財産を移譲していただくみたいな仕掛けが必要なのではないかという気はします。

(太下委員長)

ちなみにマンガ・アニメについては、今日、この後、4時から別途ビジョンづくりがありダブルヘッダーになります。

(石田委員)

そちらのほうでもお伝えさせていただきます。

(迫委員)

今のお話を聞いて思ったのですけれども、今、「らしい」と出てきているものの、よりトップランナーに近いような方を連れてくるのが、Noismさんがいることで、ダンスの業界が盛り上がりやすくなるように、鉄道も先ほどのお話だったり、よりマニアの方を新潟に住まわせるとか、サッカーチームができてサッカーが盛り上がりやすくなるようなことができる、おもしろい動きをしているのだなといったことが伝わりやすいのではないかという気がしました。食もグルメのレポーターみたいな人たちに2か所に居住を置いてもらって、県内の番組などに出るといったこともおもしろいのではないかと思います。

(太下委員長)

大谷委員、観光という観点ではいかがでしょうか。

(大谷委員)

先ほどお話がありました駅ですとか空港においでいただいた際に、さまざまなイベントをしていただいている部分では、来ていただいた方には喜んでいただけるのだろうということは感じますけれども、外から来られる方ももちろんそうですが、資料の21ページを拝見してしまして、市民アンケート調査という中において、特に何も楽しんでいないという方々がだいぶいらっしゃいます。私自身も、そうなのかなと思いつつながら、文化とは何なのだろうと。先ほど食というお話がありましたけれども、調査結果に食という文字が一切出てこないのが残念だったと。文化の活動と食というのはまだマッチングできていない。酒の陣、食の陣等とともに、どこまで市民の皆さんに周知徹底されているのか。ないしはもっと近い部分で、気軽に接する文化活動等、入口がもっと近い部分の情宣活動、広告活動等が必要なのではないかというのはこのアンケートで感じました。

(太下委員長)

食も一応、文化の中に入ってはいますが、食をメインにした計画は別途市のほうで作られているのですよね。

(事務局)

そうです。5ページの本市での位置づけのところに記載してありますけれども、同じく来年度からの5年間の計画で、「食文化創造都市にいがた推進計画」というものを食の担当部署で作っております。食についてはかなり詳しいアクションプランができる予定になっております。

(迫委員)

食を活用して観光のことをやっていこうということですか。

(事務局)

そうですね。ガストロノミーツーリズムと先ほど言いましたけれども、例えば今年から始まったレストランバスなどの取り組みについては、「食文化創造都市にいがた推進計画」に具体的に入ってくるプランになります。

(迫委員)

食も食文化として活用するわけですね。

(太下委員長)

こちらの計画にもかかるのですよね。

(事務局)

そうなのですからけれども、今回のビジョンのほうが「食文化創造都市にいがた推進計画」の上位計画になっているので、食についてそんなに詳しくは書いていないのですけれども、食文化の計画ではより詳しく書かれる予定です。

(迫委員)

分かりました。この計画の中にも食文化というのはけっこう出てくるわけなので、より食のボリュームを増やしておいたほうが、皆さんが普段体験し

ていることを全部文化と感じていただけると非常に助かるというか、酒の陣も新潟市の文化を楽しむものとしてやっていて、食の陣、酒の陣も文化としてとらえていけば、食の文化だという意識が出てくる。文化活動としては、飯を食っているのも文化活動だと言えるようになってくると、非常におもしろいまちになっていくのではないかという気がするので、計画の段階で食と文化を切り離している感じが今のことから出てきているなど思ったので、入れていくとおもしろいのではないかと思います。

(田中委員)

23 ページのアンケートの項目では、次のページには食文化が豊かであると述べているわけですがけれども、23 ページのアンケートでは食文化を楽しんでいますかという項目はあったのですか、なかったのですか。

(事務局)

ないです。23 ページもそうですし、先ほど大谷委員がおっしゃった 21 ページの楽しんでいる文化活動の分野の中でも、食文化という言葉が設問に入っていなかったのも、食文化をその他と思った人が多ければその他が多くなったでしょうし、食文化が生活文化に含まれると思えば生活文化が多くなったでしょうけれども、この設問に対しては皆さんそうは思わなかったということですね。

(太下委員長)

これは平成 23 年度の調査結果と比較していますよね。想像ですがけれども、設問は平成 23 年度のものそのまま使っているような感じがしており、多分、平成 23 年度の時点では食というものがあまり文化としてクローズアップされていなかったのではないかという気がします。

この 5 年間で急速に文化の一分野となったのかもかもしれませんね。

(角地委員)

全体として文化プログラムのことを見ていくと、一過性のイベントというか、お祭りだとかそういったものが多いと思うのですがけれども、地味になりがちな人材育成や、ここに書いてあるのですがけれども、住民自体もコミュニティをオーガナイズしていく人の育成であるということなどをもう少し、全国的にも多分たくさんイベントを打っていくほうが多くなると思うので、そういう過程を大事にするところを、新潟市として何か一つ、例えば独自性の言葉をつけて取り組んでいくといったことをしていくと、全国的に見たときに、そういった目立たないところにも色を持ってやっていくといった姿勢が分かるのではないかと考えていて、もちろんこの中にも書いてあるのですがけれども、もう少し強みのある言葉でもつけてもいいのではないかと思います。

(太下委員長)

きっといろいろな書きぶりがあるのでしょうけれども、オリンピック文化プログラム推進の市民活動の活性化のあたりに少し強調して書くとか、また

はその隣の20ページ目の「関係団体等との連携強化」の「文化芸術活動の担い手である一人ひとりの市民」という表現なのですけれども、ここも少し強調して書くとか、市のアーツカウンシル新潟もそういったものがミッションなのだという書きぶりも若干できるかもしれませんね。

ご専門の障がい者芸術の分野などでの表現はよろしいですか。

**(角地委員)**

前回の会議でその点について、1回きりのイベントではなくて、ワークショップ等を通したところから展覧会を作っていくこと自体がコミュニティにもなるということをお話しさせていただいたのですけれども、その点についてはしっかりこのビジョンの中に踏まえられていたので、自分としてはこのビジョンの言葉でいいのではないかと考えています。

**(太下委員長)**

ほかに何かご意見はございますでしょうか。

よろしければ、ここでいったん議論は切らせていただいて、もう一つの報告事項に移ります。アーツカウンシル新潟の今後の取り組みの話聞いていただいたうえでご意見があればお願いしたいと思います。事務局から、アーツカウンシル新潟の件で報告をお願いします。

## **(2) アーツカウンシル新潟の今後の取り組みについて (報告)**

**(資料5、資料6)**

**(事務局)**

お手元の資料5、資料6をご覧くださいながら進めてまいりたいと思います。「アーツカウンシル新潟」については、今年9月末に立ち上げ数か月が経ったところですが、今日、初めて皆様方にメンバーのご紹介をさせていただきたいと思います。資料5にスタッフの略歴が書いてあります。今日は残念ながら、プログラムディレクターには参加いただけませんでしたけれども、プログラムオフィサー2名と臨時職員1名に参加いただいていますので、自己紹介をさせていただきたいと思います。

**(アーツカウンシル新潟)**

プログラムオフィサーの大内郁と申します。直近では、障がいのある方のアートを見せる美術館で働いておりました。今回、アーツカウンシル新潟ではそういった経験を活かし、ソーシャルインクルージョンと文化芸術の担当という形で頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

**(アーツカウンシル新潟)**

同じくプログラムオフィサーの高橋郁乃といいます。直近では、同じく新潟市秋葉区文化会館で事業担当として働いておりました。今後、皆様にご協力、ご教示いただきたいところもあるかと思っておりますので、よろしくお願いたします。

**(アーツカウンシル新潟)**

臨時職員の一之谷と申します。直近では、県内の中越、南魚沼市の観光協会でご指導いただくことも多いと思いますので、よろしくお願ひいたします。

**(事務局)**

よろしくお願ひします。

資料6が「アーツカウンシル新潟 中長期計画 (案)」になります。オリンピック、東京2020の翌年までを視野に入れた、今、素案の段階ですけれども、これを大内プログラムオフィサーから皆様にご説明させていただきながらご意見をいただき、よりよいものにしていきたいと思ひますので、ご協力をお願ひいたします。

**(アーツカウンシル新潟)**

本日、プログラムディレクターの杉浦の出席がかないませんでしたので、私が代理でご報告をさせていただきます。また、本日、報告後の質疑なのですけれども、ディレクターが不在ということで回答ができないのですけれども、記録をとらせていただき、後日、委員の皆様へご回答させていただきたいと思ひますので、忌憚のないご意見をいただければと思ひます。

報告に入らせていただきます。お手元にお配りしております、現在、検討中の「アーツカウンシル新潟 中長期計画 (案)」に沿って今後の取り組みを検討させていただいておりますので、要点をご報告させていただきたいと思ひます。計画 (案) の1ページ目の「Ⅰ. 新潟市における文化芸術の特色と課題」につきましては、本年9月末にアーツカウンシル設立後に急な形ではありましたが、検討させていただきました。こういった分析を踏まえたものとして、「Ⅱ. アーツカウンシル新潟のめざす方向」ということで考えさせていただいております。また、これらの業務にあたる当面の目標年次なのですけれども、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会文化プログラムの全国展開が期待されている平成32年に目標年次が置かれております。当面、この目標年次を基にして、文化芸術にかかわる本市での課題解決や振興を図ることを計画 (案) として作成させていただいております。

「Ⅱ. アーツカウンシル新潟のめざす方向」です。こちらにありますように、アーツカウンシル新潟では、当面、四つの目指すべき方向性の柱を立てて業務に取り組んでいくことを考えております。順に要点を申し上げてまいります。まず一つ目ですが、北東アジアの文化拠点都市の形成ということで考えております。先ほどから議論がございましたように、新潟市は日本海側の拠点都市として、文化芸術分野においても国内外の文化交流拠点の役割を担っていくことを想定しているものです。みなとまちや開港地という歴史的な特色や気質を活かしながら、2015年に開催された東アジア文化都市の経験、ネットワークなどを活用させていただきまして、今後、北東アジアの文化拠点都市の形成や中国及び韓国を中心にロシア沿岸都市なども含めたネットワーク、環日本海文化交流圏の形成などをイメージに取り入れていくことがで

きると考えております。

二つ目は、社会包摂やまちづくり等、文化芸術の多面的利用になります。教育や福祉、まちづくりなど社会的課題において文化芸術の持つ創造性やコミュニケーション機能を活用していく取り組みになります。例えば障がいのある方ですとか、一人住まいの高齢者の方ですとか、地域社会から離れがちになったり、排除されがちであったりという市民の方々に対して、再度、社会参画を促していくという意味でのソーシャルインクルージョンの取り組みを文化芸術を通じて積極的に展開し、そのことで一人ひとりが個性を發揮し安心して豊かな市民生活をすべての方が送っていただける地域社会の実現を目指すことが考えられております。また、ここでは教育分野との連携や、自然や歴史にかかわる文化的空間の保全活動の支援なども含め、また、廃校、空き店舗の文化芸術による利活用やそこにおける新たな市民活動拠点の形成などといった課題の取り組みが同時にイメージされていくと考えております。

三つ目に、市民主体の文化芸術活動の活性化ということで、基盤づくりにかかわってくる目標となっております。先ほど申し上げましたように、当面の活動目標年次 2020 年以降において、継続的に市民の皆さんの自立的な文化芸術活動が行われるための基盤や環境を整えていくことがここで想定されております。内容としましては、市民団体の法人化や資金調達、マネジメント機能の強化を図るための支援制度の構築、あるいはアーツカウンシルでの相談機能の普及拡大を行っていくことを考えております。全体としまして、すべての市民の方々が主体的、積極的に文化芸術活動に参加できる環境を整備していくことに力を入れていくといった項目になっております。

四つ目は、文化創造交流都市・新潟の基盤強化とブランド発信といったことを掲げ、上記の三つの柱を実現することを支えていく点でも、新潟市内の各区の文化芸術の再発掘や、市内の文化芸術施設同士のつながりをより充実させていくこと、あるいは地域での文化芸術を担う人材の育成ということがここでイメージされております。また、文化創造交流都市としての都市ブランドの発信という点では、市内でもさまざまな公演チケットの購入に関する簡便なシステムの整備を含めて、外部への発信と、また外部から来られる方への新潟での文化芸術に対するアクセシビリティの向上に取り組む必要があるのではないかと考えております。

これらの目標の実現に向け、5 ページ以降、「Ⅲ. アーツカウンシルの機能」ですが、具体的には、文化芸術活動への支援、調査・研究、情報発信、企画立案といったことを通じ、Ⅳの人員体制及び人員計画をもちまして今後の業務を行っていく予定でおります。目標年次である平成 32 年度までの動きにつきまして、7 ページにあるようなスケジュールを現在想定しております。合わせてご確認いただきますよう、お願いいたします。

現在、検討しております「アーツカウンシル新潟」の今後の取り組みの内容についてのご報告を終わらせていただきます。



(太下委員長)

ご説明ありがとうございました。

ご意見、ご質問等はいかがでしょう。

2ページ目に、目指すべき方向性として四つ挙がっていますが、これは独自に設置されているのでしょうか。先ほどまでちょうど文化創造交流都市ビジョンの検討をしていたわけですが、こちらの6ページ目に新潟市の目指すべき文化創造交流都市の姿というのがあって、これに合わせたほうがいいのではないかと思います。そんなに手間はかからないかと。多少、組み替えればできると思います。

アーツカウンシル新潟にぜひこんなことを期待したいなどがあれば。

(大谷委員)

3ページ目の上から4番目の、観光・経済分野への波及効果への実現ということで、我々業界としても非常に期待したい部分なのですが、日本文化に関心を持つ訪日観光客の受入れ拠点の形成ということで、現状、何かお考えの具体論がありましたら教えていただけるとありがたいと思います。

(太下委員長)

先ほど、質問の答えは今日できないということでしたね。

(大谷委員)

後日、教えていただければと思います。

(角地委員)

これから作られるのではないかと思います。多分、市民の方や文化活動を進める市民レベルの人たちが、「アーツカウンシル新潟」ができたときにアクセスしやすさとか、窓口がきちんと市民に届いている状態だととてもいいなと思っていて、できたはいいものの、遠い存在だと使いづらいなと思うので、そこは市民による形での、例えばリーフレットを作るだとか、窓口を用意するとかといったことをしていくのではないかと思います。

(太下委員長)

ここに行けば常に相談できるみたいな感じになっているといいと思います。

(事務局)

今、場所が手狭なので、広くして、使いやすいようにしていきます。

(アーツカウンシル新潟)

また、ホームページなども順次整備をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(迫委員)

ぜひ、市内のクリエイター、アーティストの方が行きやすいような感じにしていきたいと思います。

(今井委員)

そもそも何も分からない人だと、「アーツカウンシル新潟」で検索しないと  
思います。ここには市民活動支援と書いてあるのですけれども、そこがつな  
がって分かるようになるといいなと思います。

**(村山委員)**

「市民」という単語がいろいろなところに出てくるのですけれども、市民  
の中にもいろいろな意識を持って、活動の幅も多様だと思うのですが、ここ  
に出てくる市民というのは、あらゆる市民の方を含んだ市民という表現とい  
うことでよろしいですね。

**(事務局)**

そうです。

**(村山委員)**

多様な市民と一言で言っていますけれども、多様な層と、文化に対する寛  
容度というものも多様だと思うので、そういった部分がアクセスしやすく  
使いやすく分かりやすいという部分に少し期待したいと思っています。

**(太下委員長)**

新潟市内だけではなくていいと思うのですけれども、新潟県内、または上  
越くらいまでのエリアで考えていただいているのですけれども、ぜひ、「ア  
ーツカウンシル新潟」で、企業メセナの開拓をしていただくといいのではない  
かと思います。多分、当面は市の予算、国の補助金等でいろいろな運営や事  
業をやっていかれることになると思うのですけれども、それはそれで非常に  
貴重な財源ではありますが、プラス民間による文化支援の可能性を「ア  
ーツカウンシル新潟」が中心になって開拓していくというスタイルがいいの  
ではないかと思います。実は、私は企業メセナ協議会の監事を仰せつかって  
いて、昨日、理事会があつて、その場で、企業メセナ協議会のほうでも地域  
の企業によるメセナというものをこれから普及・開拓していきましょうとい  
う方向性を提案したところでした。そうはいつても、企業メセナ協議会自体は  
スタッフが東京にしかいませんから、地域版アーツカウンシルと提携しなが  
らそういうことをやっていくと良いと思います。企業メセナ協議会としては  
日本全体でのメセナの広がりになるし、地域版アーツカウンシルから見ると、  
その地域でいろいろな文化振興を行っていく財源が新たに開拓できて、うま  
くすればそれをマネジメントできるような立場になるかもしれないので、で  
きれば企業メセナ協議会との包括協定とか提携を結んで、その第1号になっ  
て、地域メセナの開拓みたいなものをやると、それはそれでニュースバリュ  
ーを持って発信されるのではないかと思いますので、ぜひ、杉浦プログラム  
ディレクターにお伝えください。

**(石田委員)**

今、太下委員長から企業という言葉が出てきたのですけれども、大学のほ  
うも、1ページ目で新潟大学の学部統合が「脅威」に入っていて、マイナス  
からさらに脅威に入っているのですけれども、私は大学執行部の人間でも何

でもないのですが、丹治委員がいらっしやったらもっと突っ込んだお話があったかと思えますけれども、おそらく今度新しくできる創生学部というところでは地域を活性化させていく学生の課題が出てくるはずですので。

(太下委員長)

どちらかという「機会」のほうでしょうか。「機会」のほうに入ったほうがいいでしょうか。

(石田委員)

4月から始まりますので、「脅威」ではなくて、どうぞよろしくお願ひしますということ、ぜひ、うちの大学のほうにも、持ってきたノウハウや学生の支援のものもありますので、そちらを活用していただければと思いますので、よろしくお伝えください。

(能登委員)

今ほど太下委員長のお話にあった企業メセナ協議会の補足なのですけれども、毎年、1年に一、二度くらい国際的なカンファレンスをメセナ協議会が主催で東京でやられていたり、ASEAN諸国、今年はマレーシアで開催していたのですが、企業の皆さんが現地に行って、文化活動についての勉強をしたり、交流をしたりするような機会があるのです。来年は東京で開催されるらしいのですけれども、そういった会を新潟に持ってくるような形でメセナさんとお話をされると、全国的な企業すらも新潟に呼び込んで、ここに投資してもいいかなといったことが広がっていくと非常にいいのではないかと思います。

(太下委員長)

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

先ほど、素案についていろいろご意見いただきましたが、こちらもよろしいですか。

だいたいご意見をいただいたということですので、今日の意見を踏まえてこちらで取りまとめをお願いしたいと思います。

進行を事務局へお返しします。

### 3 その他

(司 会)

ありがとうございました。

それでは、「3 その他」ということで、委員の皆様から事務連絡等がございましたらお願いいたします。

次回会議の開催については3月を予定しております。詳細につきましては改めてご案内させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

最後に、山口部長よりあいさつをさせていただきます。

(事務局)

本日は第3回新潟市文化創造推進委員会ということで、本当にありがとうございました。文化というのは、文化だと思えばすべて文化になるものから、どのように整理するのかといった中で、皆様からいろいろなご意見、ご助言をいただく中で、わりとシンプルといたしますかすっきりとまとまってきたのではないかと考えております。今日、ご意見でいただいた、例えばマンガ・アニメの分野であるとか、食の部分、米や酒を中心という部分がありますけれども、両方ともやはり新潟の文化の中では非常に特徴的なものですし、特に食の部分というのはキラークンテンツなのではないかと考えております。そういう中で、ビジョンというのは、日本語に訳すと未来像、未来をどのように見ていくのかというあるべき姿を示すものだと思うのですが、マンガ・アニメと食に関してはより突っ込んだ形で、どのようなまちであるべきかとか、どのような推進計画で進めていくのか、いわゆるアクションプラン的に、より具体的なものとして別途検討しておりますので、それも並行してやっていますので、今後そういったものと整合性を図りながら実施していきたいと考えております。

今回、大きな特徴というのは「交流」という言葉を入れさせていただいたところがすごく大きいのではないかと考えております。遡れば、江戸時代の北前船の交流の歴史があり、そこでいろいろな商業活動や芸妓文化が栄えたり、先ほど、なぜ人を受け入れる部分がみなとまち気質なのかというのは、やはりそこにルーツがあるのかなと感じたところです。おかげさまで、昨年、東アジア文化都市の認定を頂き、さまざまな海外との交流を実現できていますし、また今後、開港150周年であるとか、「水と土の芸術祭」を2018年に開催する方針で進めていますし、県全体では国民文化祭、2020年のオリンピック・パラリンピックということで、国の文化芸術立国においても、文化が交流と雇用、経済をつなげていくのだといった目指す方向がありますので、私どもも、そういった観点で進めていけたらと思います。今年度3月に策定したいと考えておりますので、今後ともいろいろとご意見を賜ればと思います。

本日は大変ありがとうございました。

(司 会)

以上をもちまして第3回新潟市文化創造推進委員会を閉会いたします。本日はお忙しいところありがとうございました。

#### 4 閉 会